



S.Setoguchi

THE SILK ROAD STAKES

第29回 シルクロードステークス (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円
付加賞 637,000円 182,000円 91,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、2023.1.28以降2024.1.21まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

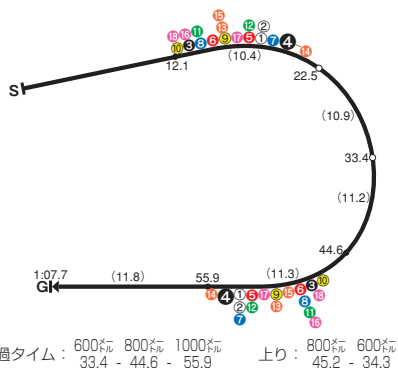
2024.1.28 京都 曇・曇 芝1200m (国産) (特指)

順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り 600m (増減)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	④	ルガル	牡	4	57.5	西村淳也	1:07.7	2-2	34.0	522(+10)	3.3②	杉山晴紀(栗東)	113
2	⑬	アグリ	牡	5	58	坂井瑠星	3	9-9	33.7	496(-4)	2.9①	安田隆行(栗東)	106
3	⑤	エターナルタイム	牡	5	54	C.ルメール	½	6-6	34.2	490(+10)	5.3③	中川公成(美浦)	97
4	⑨	サンライズロナウド	牡	5	55	横山典弘	1¼	9-9	34.1	478(+2)	30.0⑧	安田隆行(栗東)	96
5	⑩	ショウナンハクラク	牡	5	55	浜中 俊	½	17-16	33.5	480(+4)	70.0⑪	松下武士(栗東)	
6	⑫	トゥラヴェスーラ	牡	9	58	永島まなみ	ハナ	15-12	33.8	494(+8)	33.4⑩	高橋康之(栗東)	
7	⑪	サンライズオネスト	牡	7	57	和田竜二	ハナ	13-12	33.9	486(+6)	93.7⑫	河内 洋(栗東)	
8	②	メイショウソラフネ	牡	5	56	角田大河	ハナ	6-6	34.5	446(-2)	27.8⑦	石橋 守(栗東)	
9	⑥	バースクライ	牝	4	54	岩田望来	アタマ	9-11	34.1	490(+8)	9.3④	千田輝彦(栗東)	
10	⑦	カワキタレプリー	牡	5	55	岩田康誠	アタマ	17-18	33.4	444(±0)	128.6⑬	杉山佳明(栗東)	
11	⑧	サトノラムセス	牡	6	55	池添謙一	1½	12-12	34.1	484(+2)	192.8⑭	橋口慎介(栗東)	
12	⑦	ジュンオンレンジ	牝	4	54	横山和生	½	3-3	35.0	468(+16)	21.7⑥	長谷川浩大(栗東)	
13	⑧	ディヴィナシオン	牡	7	56	古川吉洋	¾	13-12	34.4	484(+8)	151.9⑮	森 秀行(栗東)	
14	⑩	ティエムスパーダ	牝	5	56	富田 暁	クビ	1-1	35.7	502(+6)	37.2⑯	木原一良(栗東)	
15	③	ホープフルサン	牡	8	57	太宰啓介	¾	15-16	34.3	510(+2)	117.1⑰	本間 忍(美浦)	
16	⑦	オタルエバー	牡	5	57	松山弘平	¾	8-8	35.1	494(+4)	11.4⑤	中竹和也(栗東)	
17	②	リバー	牝	4	54	田口貴太	1¼	4-3	35.7	432(-4)	193.2⑱	高柳瑞樹(美浦)	
18	①	カイザーメランジェ	牡	9	56	津村明秀	6	4-3	36.7	486(+6)	377.2⑲	中野栄治(美浦)	

単勝④330円(2△) 複勝④130円(2△) ⑬130円(1△) ⑤160円(3△) 枠連②-⑦440円(1△)

馬連④-⑬590円(1△) ワイド④-⑬270円(1△) ④-⑤380円(3△) ⑤-⑬370円(2△)

馬単④-⑬1,120円(1△) 3連複④-⑤-⑬1,180円(1△) 3連単④-⑤-⑬5,070円(2△)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
33.4 - 44.6 - 55.9 45.2 - 34.3

アラカルト

- ・西村淳也騎手はシルクロードS初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算8勝目
- ・杉山晴紀調教師はシルクロードS初勝利。JRA重賞は通算18勝目
- ・ドゥラメンテ産駒はJRA重賞通算23勝目
- ・4歳馬の勝利は22年メイケイェール以降3年連続、通算9回目
- ・牡馬の勝利は21年シヴァージに続く通算19回目
- ・3連複1,180円、3連単5,070円は各式別における本競走の最低払戻金額
- ・非抽選馬 1頭(ドグマ)

ルガル Lugal

牡 青鹿毛 2020.3.7生
北海道浦河町 三嶋牧場生産
馬主・江馬由将氏 栗東・杉山晴紀厩舎
馬名意味・王(シュメール語)

アタブIRE系 F20

ドゥラメンテ 鹿毛 2012	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	アドマイヤグルーヴ 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA エアグルーヴ
アタブIRE Atab 鹿毛 2012	New Approach 栗毛 2005	Galileo
		Park Express
	Moon's Whisper 黒鹿毛 1999	Storm Cat East of the Moon

5代までのインブリード：Miesque S4×M4 Northern Dancer M5×M5

INTERVIEW

三嶋健一郎 専務(三嶋牧場)

見栄えのする立派な馬体の持ち主でした

課題のスタートが決まったのであとは位置取りがうまくいけばと思ひながら見ましたが、好位につけていい競馬をしてくれました。オーナーのご期待に応じて重賞ウイナーになれたことでホッとしています。生まれた頃から黒くて見栄えのする立派な馬体の持ち主でした。ドゥラメンテは期待の種牡馬でしたし、母系にもミエスクが入っているのでこの配合に決めました。

S.Naka



デビュー4戦目に初勝利を挙げるまではタート戦に使われた本馬だが、芝の短距離戦に狙いを定めると高い適性を示し、昨年5月の橘Sを5馬身差で圧勝。続く葵Sでも2着に食い下がり、同期生相手の戦いを卒業した後もスワンS4着、京阪杯2着と好走を重ねてきた。短期放牧を挟み、プラス10%の馬体重で臨んだこの日は、本格化をアピールする走りで4歳の始動戦を完勝。昨年、リーディングに輝いたドゥラメンテの産駒としては初となる、12000馬の重賞制覇を果たすとともに、高松宮記念の有力候補に急浮上した。

父ドゥラメンテ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首9戦5勝(日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、中山記念^{G2}、ドバイシーマクラシック・首^{G1}2着、宝塚記念^{G1}2着)、最優秀3歳牡馬、17年から供用、21年死亡。23年日本リーディングサイヤー、22年日本2歳リーディングサイヤー

〔代表産駒〕リパティア일랜드(桜花賞^{G1}、オークス^{G1}、秋華賞^{G1})、タイトルホルダー(菊花賞^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1})、スターズオンアース(桜花賞^{G1}、オークス^{G1})、ドゥレツツァ(菊花賞^{G1})、シャンパンカラー(NHKマイルC^{G1})、ドゥラエレーデ(ホープフルS^{G1})、ヴァレーデラルナ(JBCレディスクラシック^{JnI})、アイコンテラー(JBCレディスクラシック^{JnI})、サウインドビバーチェ(阪神牝馬S^{G2})、シングザットソング(フィリーズレビュー^{G2})、ドゥーラ(クイーンS^{G2}、札幌2歳S^{G2})、シーズンリッチ(毎日杯^{G2})、アリーヴォ(小倉大賞典^{G2})、アヴェアレー(関屋記念^{G2})、ルガル(本馬)、ハーデングアイラー(マーキュリーC^{JnIII})、アスコルターレ(マーガレットS・L)

母アタブIRE

英4戦1勝。19年輸入

ラージン Raajin(17 驕父Raven's Pass)英3戦0勝

ジャドワル Jadwal(18 驕父Mustajeb)英、首17戦3勝

トウシンイマジ(19 牡父Mukhadram)持込 中央2戦0勝、地方13戦1勝

ルガル 本馬(20 牡父ドゥラメンテ)中央11戦3勝(シルクロードS^{G2}、橘S・

L、京阪杯^{G2}2着、葵S^{G2}2着、朱鷺S・L3着)

獲得総賞金121,500,000円

ウィズアリーブ(21 牝父ドゥラメンテ)中央1戦0勝 ㊤

(22 牡父ドゥラメンテ)

(23 牝父エビファネイア)

祖母ムーンズウィスパー Moon's Whisper

アメリカ産 不出走

ハムサットエルカマル Hamsat Elqamar(05 牝父Nayef)英1勝、ラビオ

サフィオーレ Rabiosa Fiore(クリテリウムフェミニーレ・伊L2着)の母、

レイジオバンビ Rage of Bamby(ロックフェルS・英^{G2}3着)の祖母

ムタファカー Mutafaakir(09 驕父Oasis Dream)英5勝

イブンマリク Ibn Malik(13 驕父Raven's Pass)英、首3勝(ガルフォードス

プリント・首L、ヨーロッパアンフリーH・英L、ヴィンテージS・英^{G2}2着、シャ

ンペンS・英^{G2}2着、ドバイS・首^{G2}2着、ガルフォードスプリント・首L2着)

アタブIRE(12 前出)

スプリント界に期待の新星、現る

絶対的な盟主は見当たらないスプリント界に楽しみな新星が現れた。ハント戦に生まれ変わった2002年以降のシルクロードSで、優勝馬が2着馬につけた最大着差は2馬身^{1/2}(12年ロードカナロア、14年ストリートガールが記録)。しかし今年は2番人気に支持された4歳馬ルガルが、これを上回る3馬身差で勝利を飾り、重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

ダッシュは鈍かったものの、手綱を押されてスピードに乗ったテイムスパダが前半2000m地点で先手を奪い、やはりレースを牽引。ゲートの課題をクリアし、抜群のスタートを切ったルガルの西村淳也騎手は、10秒台の

ラブを連発する逃げ馬を先に遣り、離れた2番手を進む。未知の魅力に期待がかかり、3番人気の支持を集めたエターナルタイムは、初のスプリント戦にもスムーズに対応して好位勢の直後を追走。トップハンデタイの58%と1番人気の支持を背負ったアグリは中団で仕掛けのタイミングを窺った。

楽な手心えをキープしたまま、3コーナーの坂の下りで差を詰めた西村騎手は、直線に向くと馬場の真ん中に進路を取ってスパイト。鋭く反応したルガルが残り300m地点で先頭に立ち、たちまち後続を突き放す。先を越されたエターナルタイム、アグリも懸命に反撃したが、抜け出してからもしっかりと伸びたルガルは2頭の追撃をまったく寄せ付けず、最後は手綱を緩められてゴールに飛び込んだ。